

めぐりアーティスト・トーク ⑥

情報の全てを

変異させる事とは

アーティスト・デュオ ネルホル

グラフィックデザイナーと

彫刻家の共感

田中ネルホルのきっかけは、10年ほど前です。僕はグラフィックデザイナーで、飯田は彫刻家ですが、彼の紙を使った作品に関心を持ち、会うことに。デザインの世界と違って、美術は自由な代わりに自己満足的なイメージがあったのですが、話をする、共通する部分もあり、違う部分もあって新鮮でした。それを合わせたらどうなるか、それがスタートになりました。

飯田：もともと僕は「本」という形態に興味があり、既成の文庫本を「彫って」作品を作っていました。田中と出会い、自分のコンセプトを綴った文庫本を彼がデザインしました。26冊つくり、そこにA〜Zまでアルファベットを1冊に1文字彫り込んだ作品が最初の作品になりました。

デザインと美術、その違いは？

田中：最初の作品は、発表する気はなかったんですが、たまたま見た人が展示すればと言ってくれて、展示することに。そこでネル(練る)とホル(彫る)のアーティスト名も決めました。飯田：展示会は、あまり思ったような評価が得



田中義久
られませんでした。

田中：デザイン業界の人はデザインじゃない、美術業界の人には美術じゃないと言われ

ました。何故そう言われるのか、検証するためにも制作をつづける必要性があると感じました。デザインと美術の違いは何なのか、それは本当に重要な事なのか、と。

代表作を紹介する凱旋展示

田中：めぐりアートでは、自分たちの代表作を紹介したいと思っています。ひとつは、金沢



《multiple-roadside tree #3》2016 ©Nerhol Courtesy of YKG / Yutaka Kikutake Gallery

21世紀美術館で展示した最新作《multiple-roadside tree》。1本の街路樹を5ミリ単位で輪切りにして撮影し、プリントしました。巨大なプリントを何百枚も重ねて、年輪に沿ってカッターで1枚ずつ切り出しています。そこには、木が内包していた、何年もかけて成長して来た時間の層が顕れています。

飯田：ポートレートのシリーズ《ATLAS》も予定しています。これはモデルとなる人じつと動かないようお願いして、3分間シャッター(約200カット)を切り続けます。しかしどうしても被写体は動いてしまう。視線は泳ぎ揺らぎとなって表れる。それを全てプリントして重ね、1枚ずつカットしていきま

した。現実の人が常に孕んでいる動きを、揺らぎとしてポートレートに纏わせることで、1枚の写真では抜け落ちてしまうその人固有の何かが、顕れているように思います。

田中：これが、美術館のインフォメーションの横にあつたら面白い。「この人誰ですか?」みたいな、そもそもポートレートってなんだろうと。

飯田：僕たちとしても故郷の静岡県では初の展示なので、とても楽しみにしています。



飯田竜太

Nerhol

(田中義久・飯田竜太)

田中義久 たなかよしひさ
1980年 静岡県浜松市生まれ
2004年 武蔵野美術大学卒業
グラフィックデザイナー／東京都在住

石内都、荒木経惟、森山大道らの多くの写真集や、アーティストの作品集の装丁、デザインを手がける。
2014年、The Best Photobooks(米TIME誌)に選出。
主な受賞にFOAM TALENT賞(オランダ)、JAGDA賞、JAGDA新人賞、Art Fair Tokyo 2013 Bacon Prize、Red Dot Award(ドイツ)など。
2016年、東京都写真美術館のシンボルマークを作成。

飯田竜太 いいだりゅうた
1981年 静岡県沼津市生まれ
2004年 日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業
2014年 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了
彫刻家／日本大学芸術学部常勤講師／東京都在住

2004年 「第22回 グラフィックアート「ひとつば展」」グランプリ受賞／ガーディアン・ガーデン(東京)
2009年 「第12回岡本太郎現代芸術賞」入選／川崎市岡本太郎美術館(神奈川)
2013年 「Art Fair Tokyo 2013」Bacon Prize受賞／東京国際フォーラム(東京)
2016年 個展「本棚のアーケオプテリス」ガーディアン・ガーデン(東京)

静岡市美術館

エントランスホール・多目的室

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

Tel:054-273-1515

開館時間:10:00-19:00 休館日:月曜日

JR静岡駅北口より徒歩3分

